

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境(第4図)

倉谷西中田遺跡、倉谷荒田遺跡、豊成叶林遺跡、豊成上神原遺跡が所在する大山町は、鳥取県西部、西伯郡の北東部を占める位置にあり、県庁所在地の鳥取市からは西へ約80km、県西部中核都市の米子市に隣接する。町域は、南端の大山(1,729m)を頂点に、船上山(615m)から金屋付近の日本海に至る線を東辺とし、西辺は大山を頂点に下楨原・孝霊山(751m)を結び保田付近の日本海に至る、不整逆三角状に広がる形を呈す。東西約15km、南北約20km、総面積は約189.8km<sup>2</sup>を測り、人口は17,702人(平成25年1月)の農畜産漁業・観光を主な産業にする町である。

本町の地勢は、大山山系から放射状に流れる小河川により侵食され残った、手指状に延びる台地上の尾根と急峻な小溪谷が繰り返す火山性台地と、甲川、下市川、真子川、名和川、阿弥陀川流域に発達した平野部からなる。平野部は、肥沃な黒ボク地帯で、特に阿弥陀川流域は県内でも屈指の広さとなる扇状地を形成している。台地は、古期扇状地堆積物層上に主に大山テフラの堆積したもので、海岸線付近まで延びている。町内には、前述の大山山麓に源流を発する河川の他、大小計12本の川が日本海に注いでいる。

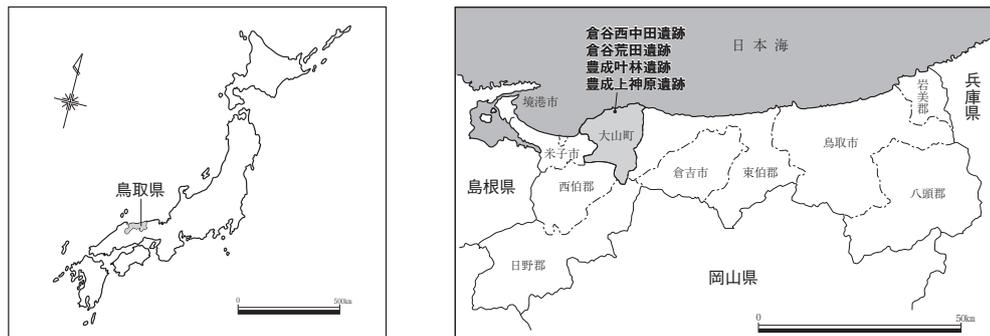
倉谷西中田遺跡、倉谷荒田遺跡、豊成叶林遺跡、豊成上神原遺跡は、同町の東西ほぼ中央で、海岸線から約1.2~1.7kmの丘陵上に位置している。これらの丘陵は大山から北に延びる尾根の裾にあたり、各遺跡の調査地は、これらの丘陵を東西方向に横断するように広がっている。

### 第2節 歴史的環境(第5図)

大山町内では近年、山陰道関連の発掘調査をはじめ発掘調査が多数行われている。ここでは今回報告する4遺跡の周辺である大山町の中央から東側に位置する、おおよそ旧名和町及び旧中山町に所在する遺跡について、時代ごとに概要を述べる。

**旧石器時代** 近年大山山麓では、発掘調査によって後期旧石器遺物が確認されるようになった。門前第2遺跡(西畝地区)(107)では、AT火山灰層以下(28,000年以前)で黒曜石製ナイフ形石器・黒曜石剥片を含む石器群が確認されている。その他、出土層位は明確ではないが、名和小谷遺跡(113)では黒曜石製国府型ナイフ形石器が、押平尾無遺跡(103)では角錐状石器が出土している。

**縄文時代** この地域は、県内においてもこの時期の遺跡が多数存在する地域である。退休寺、羽田井、上大山、大仙道、陣構、坊領、荘田などでは、草創期と考えられる有茎尖頭器、局部磨製石斧が表採されている。早期では、門前第2遺跡(菖蒲田地区)(107)で押型文土器とともに10基の配石群、名和



第4図 遺跡位置図

## 第2章 遺跡の位置と環境

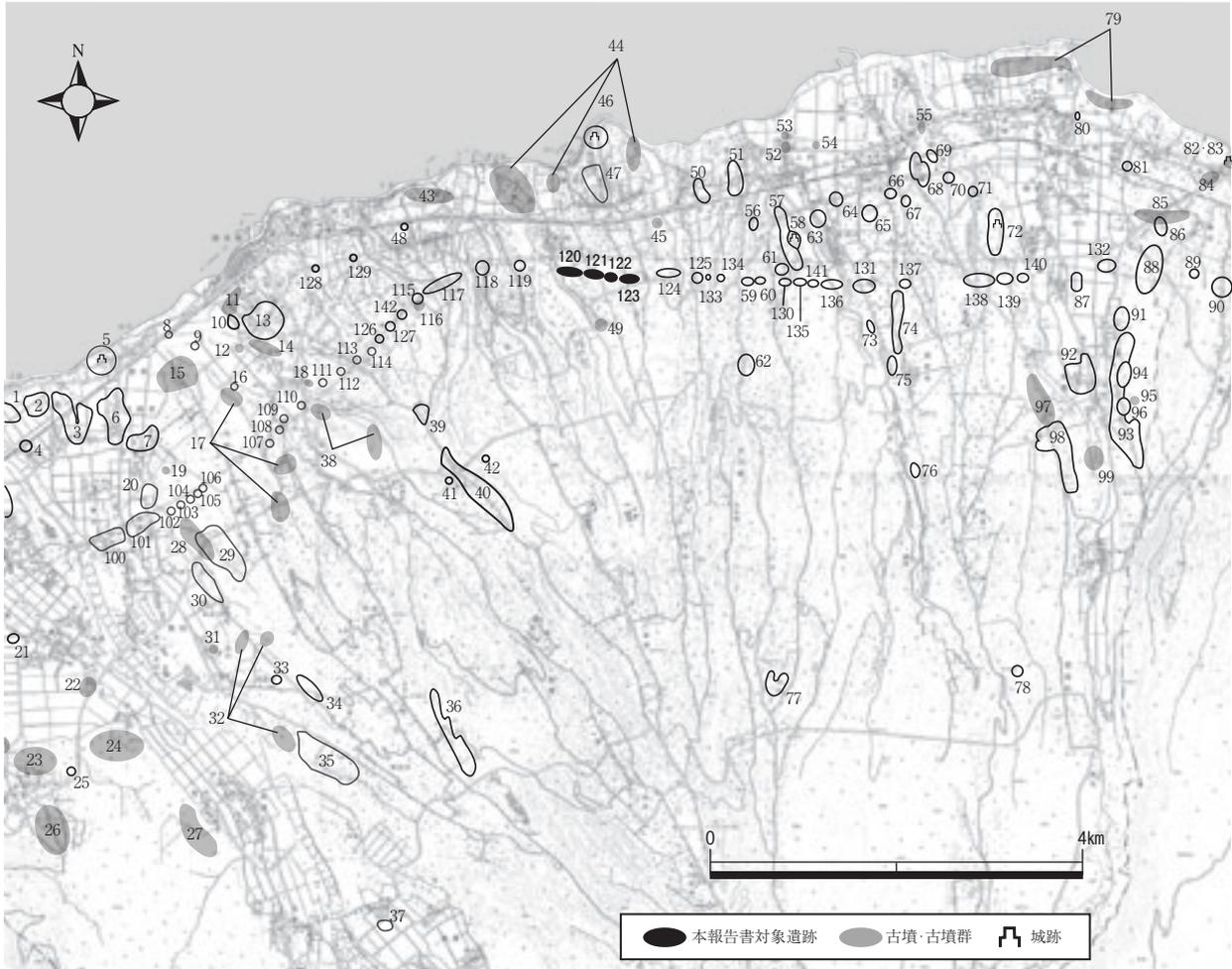
飛田遺跡(110)では早期末から前期の土坑が検出されている。遺構は伴わないが赤坂後口山遺跡(71)、退休寺飛渡り遺跡(75)、古御堂金蔵ヶ平遺跡(105)、上大山第1遺跡(36)、角塚遺跡(39)、高田第4遺跡(34)、蛇居谷遺跡、大道原遺跡、塚田遺跡、蔵岡第1遺跡(37)、茶畑山道遺跡(20)などでは押型文土器等が出土している。また、西坪上高尾原遺跡(126)では、早期末から前期初頭にかけての石器製作跡が知られる。前期では、石器製作跡と推定される下市築地ノ峯東通第2遺跡(60)や、玦状耳飾が出土している名和乙ヶ谷遺跡(111)がある。中期では、貯蔵穴が確認された細工塚遺跡(63)などがある。後期では、南川遺跡(9)で石組炉を備えた住居跡、晩期では、大塚第3遺跡(1)で住居跡が見ついている。その他、落とし穴が八重第3遺跡(91)、小松谷遺跡(68)、下甲抜堤遺跡(70)、赤坂後口山遺跡、門前上屋敷遺跡(109)、門前第2遺跡、小竹下宮尾遺跡(118)、小竹上鷹ノ尾遺跡(119)、西坪岩屋谷遺跡(115)、豊成上神原遺跡(123)、豊成上金井谷峰遺跡(124)、倉谷西中田遺跡(120)、西坪下馬駄ヶ峰遺跡(127)など多数の遺跡で検出されており、狩猟場として丘陵・微高地縁辺部が利用された様子がうかがわれる。

**弥生時代** この地域では前期の遺構は少なく、大塚岩田遺跡(2)で環濠の可能性のある溝が検出されているほか、樋口第1遺跡(87)、三谷遺跡(98)、などで土器が出土している程度である。中期になると遺跡数が増え、集落遺跡として細工塚遺跡、退休寺遺跡(74)、退休寺飛渡り遺跡、殿河内落合遺跡(73)、押平弘法堂遺跡(100)、殿河内定屋ノ前遺跡(131)、名和飛田遺跡、門前上屋敷遺跡等が挙げられる。また、倉谷荒田遺跡(121)では中期の住居跡の最上面で弥生時代後期から古墳時代前期に属する鑄造鉄斧がほぼ完形で出土している。茶畑山道遺跡、茶畑第1遺跡(102)では独立棟持柱を備える大型掘立柱建物をもつ集落が検出され、この地域の拠点的な集落と考えられている。後期には、退休寺遺跡、八重第3遺跡、大塚塚根遺跡(3)、押平尾無遺跡、茶畑第2遺跡(29)、茶畑六反田遺跡(101)、茶畑第1遺跡、東高田遺跡(30)、小竹下宮尾遺跡、小竹上鷹ノ尾遺跡、倉谷西中田遺跡など丘陵上に集落が多数造営される。その中でも、米子市及び大山町に位置し、複数の丘陵上に展開する国史跡妻木晩田遺跡は、弥生時代中期以降夥しい数の住居・倉庫、四隅突出型墳丘墓、環濠などがつくられるなど、集落研究にとって重要な遺跡である。当該期には、松尾頭地区において、首長居宅と考えられる竪穴住居跡と近接して祭殿と考えられる二面庇の高床建物跡も確認されている。終末期の墳墓としては、徳楽方墳(25)、松尾頭1・2号墓、門前1号墓(107)がある。

**古墳時代** 前期では、確認されている古墳は少なく、小規模な方墳が茶畑第1遺跡で確認されているにすぎない。当該地域の古墳は、ほとんどが中期から後期にかけてのものであるが、中期のもののうち、高塚古墳(54)、ハンボ塚古墳(12)は、葦石・埴輪などの外表施設を持つ大型円墳で、首長墳の内容を持つ。後期になると御崎古墳群(79)、東積古墳群(99)、三谷古墳群(97)、高田古墳群(32)、門前古墳群(17)、豊成古墳群(44)、坪田古墳群(14)、富長山村古墳群(15)、蔵岡古墳群、宮内古墳群(27)、平古墳群(24)などが形成されている。このうち、御崎古墳群では塊石を用いた箱式石棺を有し、鳥取県中部地域に特徴的に見られる壺型埴輪が出土しており、他地域との交流がうかがわれる。また、岩屋堂古墳(52)、長野2号墳、岩屋平ル古墳(95)、三谷16号墳、東積11号墳、高田26(31)・27号墳、茶畑12号墳、豊成28号墳(45)、宮内1・2号墳、平狐塚古墳など切石積み横穴式石室をもつものがあり、米子市淀江町域までの同一文化圏を形成している。また、高田25号墳は、横穴式石室内に家形石棺を内包する。当地域は豊成横穴群など横穴群も形成されている。この時代の集落は、依然丘陵上に営まれる傾向が強く、前期の茶畑第1遺跡、下市前築地遺跡(134)、中期から後期の押平尾無遺跡、古御

堂笹尾山遺跡(104)、名和中畝遺跡(114)、大塚塚根遺跡、仁王堂遺跡、住吉第2遺跡(67)などがある。名和川の河岸段丘上には名和飛田遺跡、門前上屋敷遺跡がある。

**古代** 7世紀後半以降、山陰地方で仏教文化受容の痕跡が認められる。現在県内では22カ所の古代寺院が見つかっており、当該地域では高田原廃寺(33)がある。ここでは、乱石積基壇や溝状遺構が検出され、上淀廃寺式の単弁十二葉蓮華文軒丸瓦が出土している。その他、名和神社付近の長者原遺跡(13)が、『延喜式』に記載された古代山陰道の和奈駅(奈和の誤記か)として推定されている他、礎石建物、



1. 大塚第3遺跡 2. 大塚岩田遺跡 3. 大塚塚根遺跡 4. 大塚屋敷遺跡 5. 富長城跡 6. 古御堂遺跡 7. 文殊領屋敷遺跡 8. 荒田遺跡 9. 南川遺跡
10. 馬郡遺跡 11. 名和公園裏古墳群 12. ハンボ塚古墳 13. 長者原遺跡 14. 坪田古墳群 15. 富長山村古墳群 16. 門前礎石群 17. 門前古墳群 18. 長綱時古墳群
19. 原3号墳 20. 茶畑山道遺跡 21. 清原遺跡 22. 中高遺跡 23. 長田古墳群 24. 平古墳群 25. 徳楽方墳 26. 源平山古墳群 27. 宮内古墳群 28. 茶畑古墳群
29. 茶畑第2遺跡 30. 東高田遺跡 31. 高田26号墳 32. 高田古墳群 33. 高田原廃寺 34. 高田第4遺跡 35. 高田第10遺跡 36. 上大山第1遺跡 37. 蔵岡第1遺跡
38. 梶原古墳群 39. 角塚遺跡 40. 栃原遺跡 41. 栃原窯跡 42. 上寺谷たたら 43. 東坪古墳群 44. 豊成古墳群 45. 豊成28号墳 46. 長野城跡
47. 浜ノ坂遺跡 48. 龍光寺掘遺跡 49. 倉谷横穴墓 50. 松河原第1遺跡 51. 松河原第2遺跡 52. 岩屋堂古墳(岡古墳) 53. 岡3号古墳 54. 高塚古墳 55. 曲松古墳群
56. 築地峯東通遺跡 57. 林之峯東通遺跡 58. 天守山遺跡 59. 下市築地ノ峯東通第3遺跡 60. 下市築地ノ峯東通第2遺跡 61. 要害ノ峯遺跡 62. 築地ノ峯第3遺跡
63. 細工塚遺跡 64. 向畑遺跡 65. 住吉第4遺跡 66. 住吉第1遺跡 67. 住吉第2遺跡 68. 小松谷遺跡 69. 林之峯遺跡 70. 下甲抜堤遺跡 71. 赤坂後口山遺跡
72. 石井垣城跡 73. 殿河内落合遺跡 74. 退休寺遺跡 75. 退休寺飛渡り遺跡 76. 退休寺第1遺跡 77. 二本松遺跡 78. 羽田井遺跡 79. 御崎古墳群
80. 御崎第2遺跡 81. 田中川上遺跡 82. 筧津城跡 83. 筧津古墳群 84. 坂ノ上古墳群 85. 梅田(栄田)古墳群 86. 梅田六ツ塚遺跡 87. 樋口第1遺跡(樋口遺跡)
88. 梅田萱峯遺跡 89. 梅田東前谷中峯遺跡 90. 筧津乳母ヶ谷第2遺跡 91. 八重第3遺跡 92. 樋口第2遺跡 93. 八重第4遺跡 94. 八重第1遺跡
95. 岩屋平古墳 96. 八重第2遺跡 97. 三谷古墳群 98. 三谷遺跡 99. 東積古墳群 100. 押平弘法堂遺跡 101. 茶畑六反田遺跡 102. 茶畑第1遺跡 103. 押平尾無遺跡
104. 古御堂笹尾山遺跡 105. 古御堂金蔵ヶ平遺跡 106. 古御堂新林遺跡 107. 門前第2遺跡 108. 門前鎮守山城跡 109. 門前上屋敷遺跡 110. 名和飛田遺跡
111. 名和乙ヶ谷遺跡 112. 名和衣装谷遺跡 113. 名和小畝遺跡 114. 名和中畝遺跡 115. 西坪岩屋谷遺跡 116. 西坪岩屋谷古墳 117. 東坪中林遺跡
118. 小竹下宮尾遺跡 119. 小竹上鷹ノ尾遺跡 120. 倉谷西中田遺跡 121. 倉谷荒田遺跡 122. 豊成叶林遺跡 123. 豊成上神原遺跡 124. 豊成上金井谷峰遺跡
125. 松河原上奥田第2遺跡 126. 西坪上高尾原遺跡 127. 西坪下馬駄ヶ峰遺跡 128. 名和下菖蒲谷遺跡 129. 西坪三軒屋遺跡 130. 下市天神ノ峯遺跡
131. 殿河内定屋ノ前遺跡 132. 樋口西野末遺跡 133. 松河原上奥田第3遺跡 134. 下市前築地遺跡 135. 殿河内ウルミ谷遺跡 136. 殿河内上ノ段大ブケ遺跡
137. 下甲退休原第1遺跡 138. 赤坂小丸山遺跡 139. 赤坂頭無し遺跡 140. 石井垣上河原遺跡 141. 殿河内日ノ出峰第1・第2遺跡 142. 西坪中中畝遺跡

第5図 周辺遺跡分布図

## 第2章 遺跡の位置と環境

区画溝、大量の炭化米がみつまっていることから、汗入(あせり)郡の正倉とも推定されているがいずれも明確ではない。大塚屋敷遺跡(4)では、倉庫群と考えられる掘立柱建物跡群が見つまっている。栃原窯跡(41)は須恵器窯と考えられるが、上寺谷遺跡(42)の製鉄炉やその周辺での鉄滓表採事例などから、炭窯の可能性も指摘されている。細工塚遺跡では大型の掘立柱建物跡群が検出され、平安時代の官衙関連遺構や有力層の建物と想定されている。名和衣装谷遺跡(112)では2棟の大型掘立柱建物跡や鉄滓、緑釉・灰釉陶器が見つかっており、郡司層の居宅又は郡衙下部の鉄生産に関わる遺構と考えられている。茶畑六反田遺跡では、条里区画の一部と見られる溝が検出され、緑釉陶器や墨書土器が出土している。名和乙ヶ谷遺跡、小竹下宮尾遺跡では道路状遺構が検出されている。倉谷西中田遺跡では、掘立柱建物からなる集落が形成されている。当時、大山寺は、密教隆盛とともに信仰の中心的な役割を果たし、地方豪族に並ぶ僧兵勢力を有すようになる。平安時代末期には末法思想が広まる中、和鏡8枚などを含む壹宮経塚が作られている。なお、当該地域の古代の行政区画は、汗入郡東積郷、汗入郷、奈和郷、尺度郷、高住郷に属する。

**中世** 律令体制の崩壊とともに封建制社会が形成される。門前上屋敷遺跡では、中世の田畠跡、屋敷地を区画すると考えられる大溝が検出されているほか、大規模な造成が認められ、居館跡又は寺院跡の指摘もある。倉谷西中田遺跡では東西約130m、南北90m以上の大規模な堀に区画された居館跡が確認されている。門前礎石群は、青白磁・染付などの出土から中世以降の礎石建物と考えられる。旧名和町域には名和氏一族に関わるとされる旧跡が各所に見られる。その他、籠津豊後守敦忠の居城とされる石井垣城(72)、天守山城、香原山城、松尾城などの他、富長城(5)、長野城(46)、末吉城、福尾城など日本海沿岸部にも多く砦跡が築かれている。門前鎮守山城跡(108)では、大規模な土塁・堀切が検出された。門前第2遺跡では、中世から近世・近代にかけての大規模な墓地が形成されている。

**近世** 寛永9(1632)年に池田光仲が鳥取藩主となり、因伯は幕末まで池田氏の治世となる。この時代、御来屋は伯耆街道の宿駅、藩の運上米の積出港として重要な位置を占めた。

今回の調査によって、豊成叶林遺跡で旧石器時代の遺構・遺物を確認し、県内でも資料の多くない時期についての良好な資料を得ることができた。縄文時代については、倉谷西中田遺跡、倉谷荒田遺跡、豊成叶林遺跡で落とし穴を複数検出し、当地域における共通した地形の利用を示している。弥生時代については、倉谷荒田遺跡、豊成叶林遺跡で竪穴住居跡を確認しており、周辺の丘陵上と同じく集落が広がっていたことがうかがえる。また、倉谷荒田遺跡では、古墳時代前期から中期の竪穴住居跡も検出したことから継続した土地利用が明らかとなった。古代については、倉谷西中田遺跡で製塩土器がまとまって出土しており、土器製塩についての良好な資料が得られた。中世については、豊成叶林遺跡は検出した遺構や遺物から墓域としての機能が想定でき、同時期の倉谷西中田遺跡の居館跡との関連の可能性が指摘できる。

### 参考文献

- 名和町誌編纂委員会編 1978『名和町誌』
- 鳥取県埋蔵文化財センター 1986『鳥取県の古墳』
- 鳥取県埋蔵文化財センター 1988『旧石器・縄文時代の鳥取県』
- 鳥取県埋蔵文化財センター 1989『歴史時代の鳥取県』
- 内藤正中・真田廣幸・日置左エ門著 1997『県史31 鳥取県の歴史』(株)山川出版社
- 鳥取県教育委員会 2004『鳥取県中世城館分布調査報告書』第2集(伯耆編)
- 中山町誌編集委員会編 2009『新修中山町誌』
- 発掘調査報告書類については割愛させていただいた。